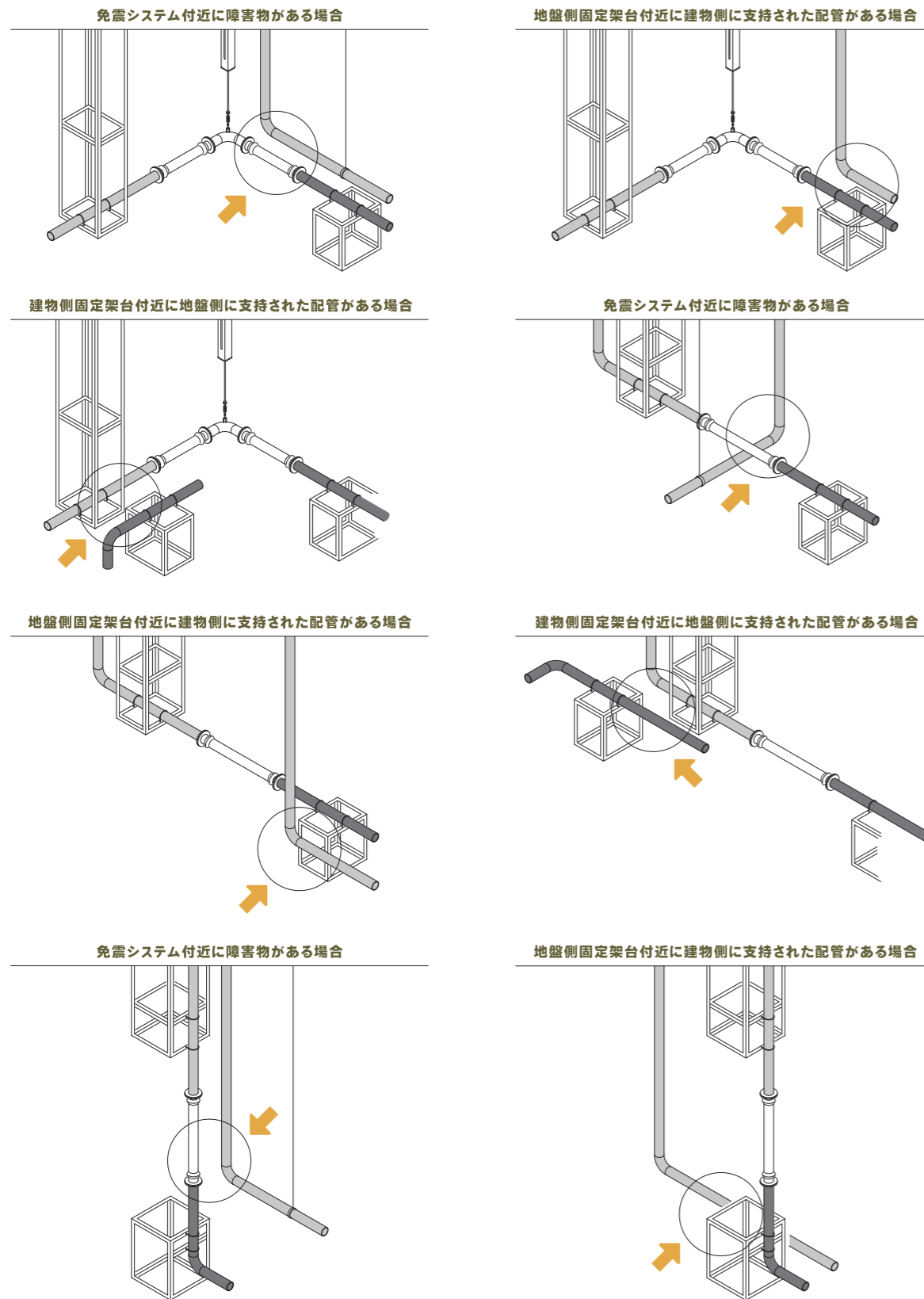
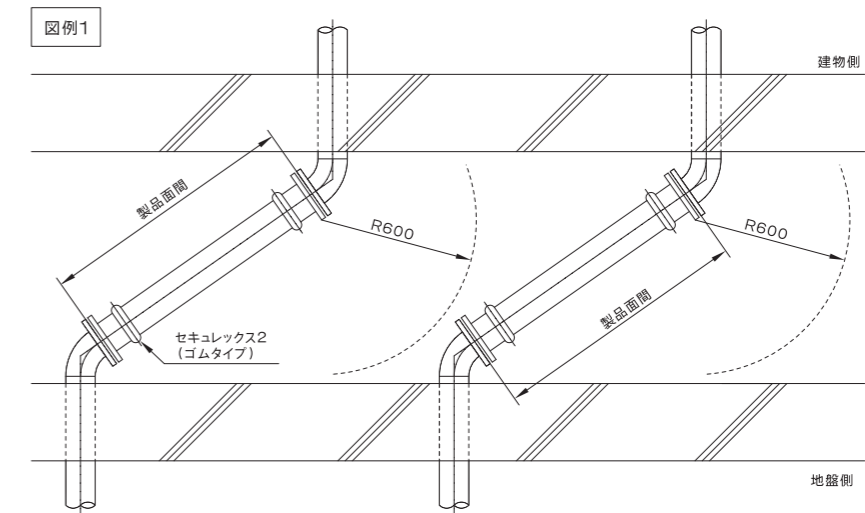


作動スペースの確保

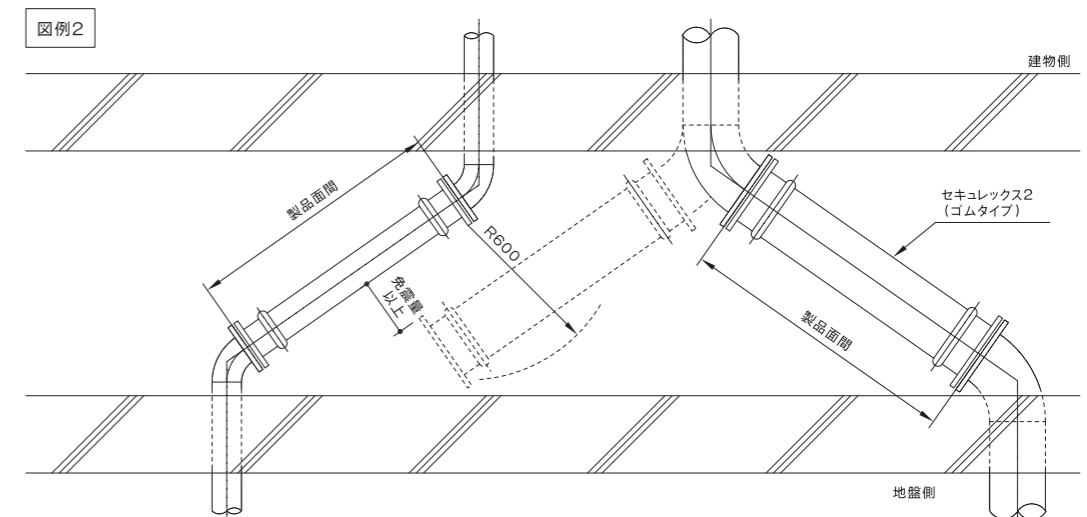
作動時免震システムが配管などの他の構造物に接触しないよう相対変位に合わせ十分な作動スペースを確保してください。また、免震システム設置後も、障害物などを置かないよう充分にご注意ください。



Fシステム免震クリアランスの確保(免震量600mm)



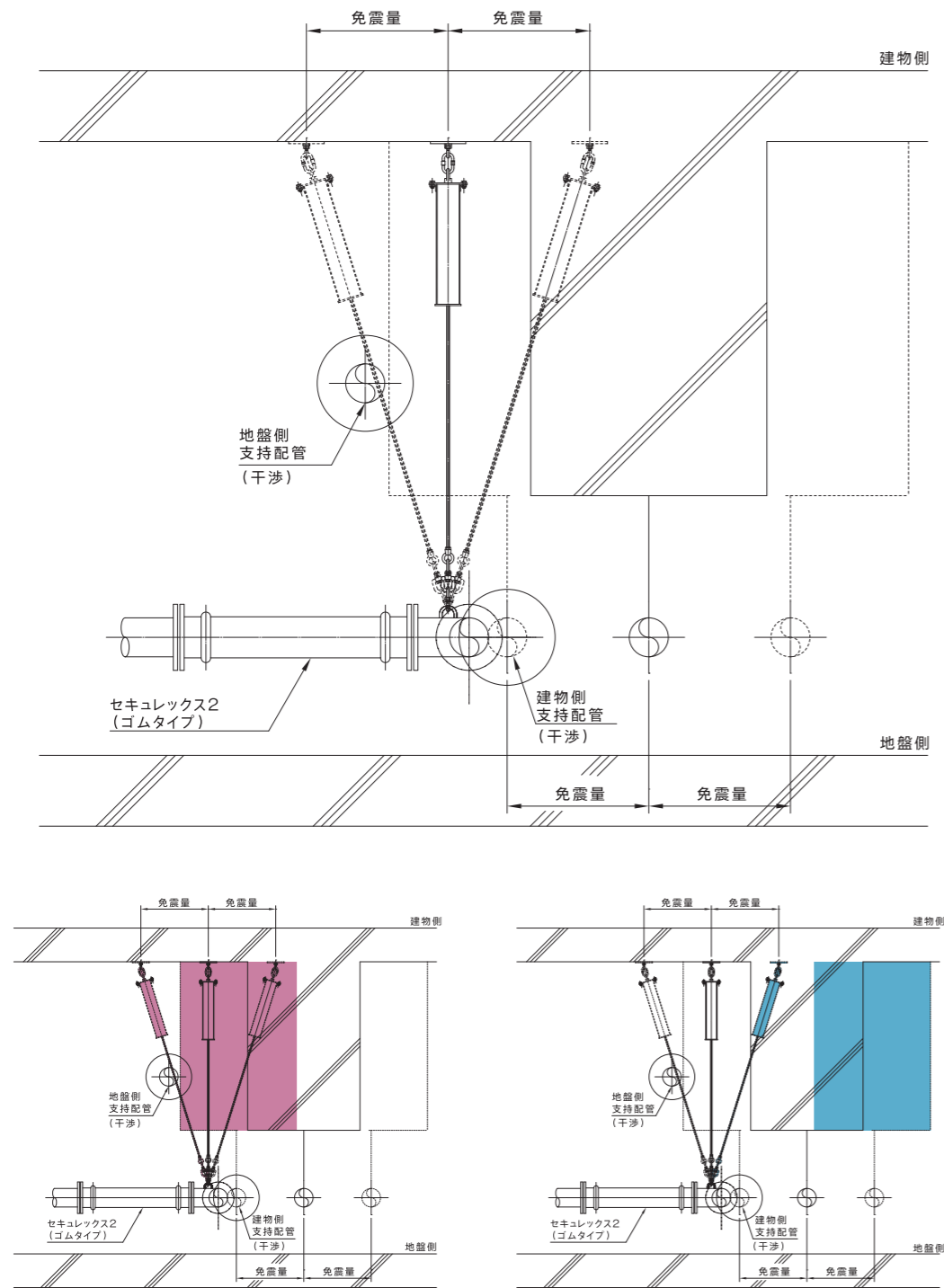
● 免震継手を斜め取付けにて数本並列で支持する場合には、図例1のようにフランジ端部より免震量以上を確保する必要があります。



● 図例2のR600の点線円弧内には支持することはできません。そのため、図例2のように右側の免震継手が破線部位にあった場合、R600の点線円弧内に進入するため、支持が不可となります。
● 口径や免震継手面間を考慮し、斜め角度を検討して下さい。

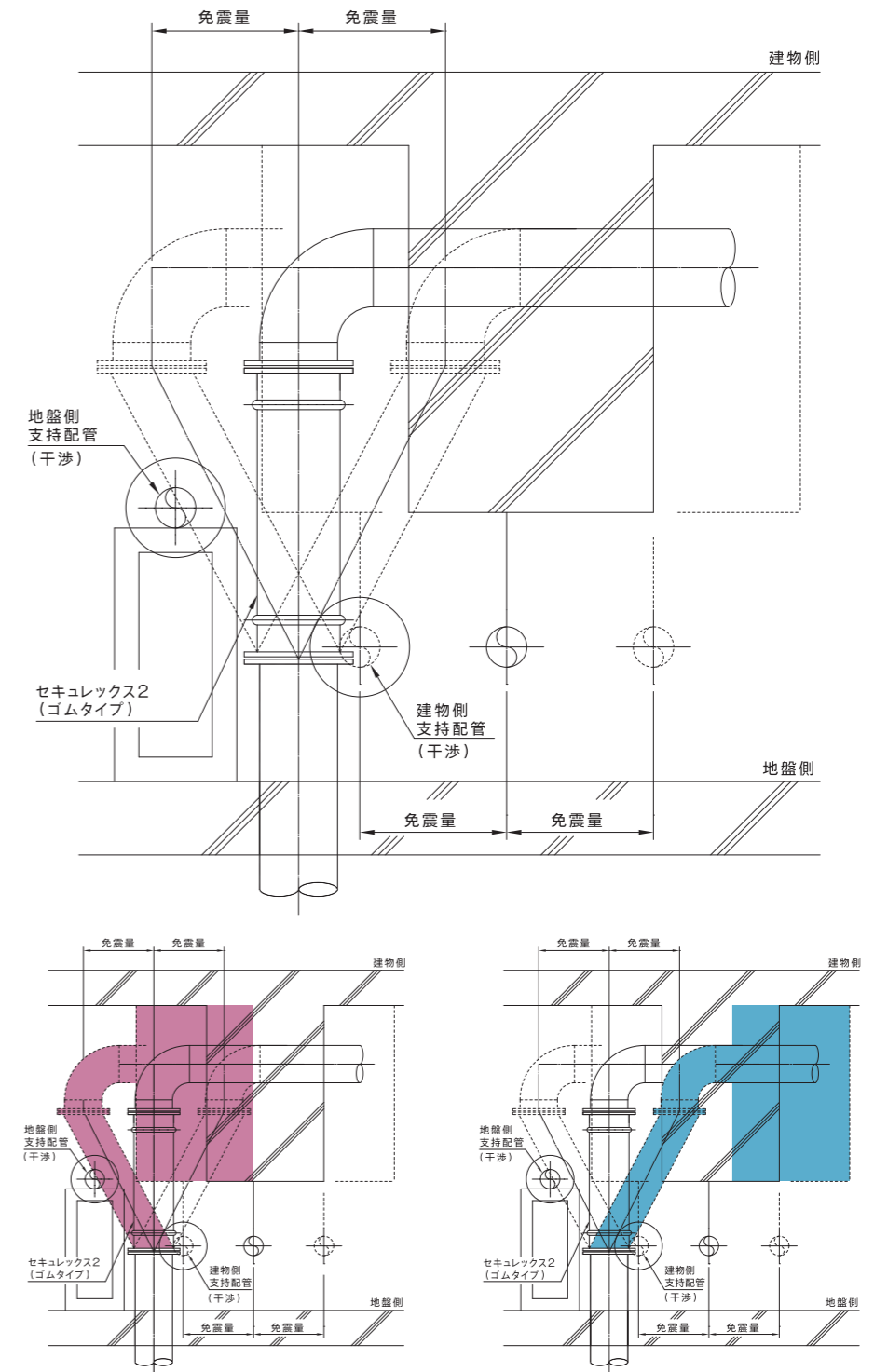
作動スペースの確保

Hシステムのコントロールサスペンション吊り位置クリアランスの検討



●口径や免震継手面間、吊り高さを考慮し、点線のように免震継手が稼動した際、コントロールサスペンションが稼動と相反する支持部(○箇所)と干渉することになるため、支持部からコントロールサスペンション吊り位置(芯)または地盤側支持配管位置の検討が必要となります。また、建物側支持配管も同様に免震継手と干渉するため、これも支持部の位置検討が必要となります。

Vシステムの配管位置免震クリアランスの検討



●口径や免震継手面間を考慮し、点線のように免震継手が稼動した際、免震継手胴部が稼動と相反する支持部(○箇所)と干渉することになるため、支持部の位置検討が必要となります。また、建物側支持配管も同様に免震継手と干渉するため、これも支持部の位置検討が必要となります。